

H26.3.15

# 大腸がん検診



長尾和宏（ながお・かずひろ） 東京医大卒業後、大阪大第二内科入局。平成7年、尼崎市で「長尾クリニック」を開業。外来診療から在宅医療まで“人を診る”総合診療を目指す。医学博士。近著「平穀死・10の条件」「胃ろう」という選択、しない選択」はいずれもベストセラー。関西国際大学、東京医科大学客員教授。55歳。

今回は「大腸がん検診」について考えてみましょう。大腸がんは、日本人では2番目に多いがんとして急浮上しています。胃がんの患者は、徐々にやせてきて、特有の顔つきになるとがんと知られていますが、大腸がんは肉付きや血色のいい人に多く、気づきにくい場



「健診」シリーズ④

肺、脳に転移しても手術で取り除けば完治してしまうことがあります。

がんは遠隔転移があると完全に治すのは難しいのです

が、大腸がんだけは例外的です。「助かる範囲」は広いと

いうことができます。町医者にとっては発見しがいがあるがんともいえます。

大腸がん検診の方法としては、通常は「便潜血検査」が行われています。出たばかりの便に小さな棒を接触させ、

便潜血検査の有効性は科学的に確認されており、大腸がんの検査法としては信頼性の高いものといえるでしょう。

問題は、便潜血陽性となつた場合に次に行う検査です。前処置がややわざらしいことがあります。検査前日から検査食を食べて、当日には大量の下

液に反応する試薬を使って調べる検査。化学法と免疫法があるが、最近免疫法が主流で、大腸がん検診に広く用いられている。

## 便潜血陽性なら内視鏡検査を

微量の血液を検出する検査法です。

私は高齢者には注腸造影を行つこともあります。

2回行い、1回でも陽性であれば「陽性」と判断します。そうなつた人は放置しないでください。腸の病気の可能性が多分にあります。もちろん、便潜血陽性イコール大腸がんであるとは限らず、大腸ポリープや痔のことが多いのですが、無症状の大腸がんが発見され、命が助かったケースが多くあります。

私は高齢者には注腸造影を行つこともあります。内視鏡検査は内視鏡検査を勧めます。注腸造影をして異常が疑われた場合は内視鏡検査を行う必要があります。

があるからです。患者さんに2度手間をかけないためにも専門医による内視鏡検査を勧めています。

他の検査法としては、カプセル内視鏡や、CTを用いた

バーチャル内視鏡など、患者

への負担が少ない新しい検査法が研究開発されています。が、まだ一般化していません。

大腸内視鏡検査の弱点は、場所が研究開発されています。が、まだ一般化していません。

大腸内視鏡検査の弱点は、

への負担が少ない新しい検査

て便の中に血液が混じっていないかどうか、血

法が研究開発されています。

便潜血検査 消化管から出血したことによつて便の中に血液が混じっていないかどうか、血

法があるが、最近免疫法が主流で、大腸がん検査に広く用いられている。